

令和3年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人八尾市文化振興事業団	
施 設 名	八尾市文化会館（プリズムホール）	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	10,001	(千円)
	公 演 事 業	1,690 (千円)
	人 材 養 成 事 業	1,227 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	7,084 (千円)

(1) 令和3年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	まちで魅了する舞台事業 1 for Family うたっ て!おどって!楽しい ね!	令和3年7月31日	内容: 京都フィルハーモニー室内合 奏団アンサンブル演奏に楽器作りや キャンプ体験をセットして実施。	目標値	70
		アクトランドYAO(八 尾市)		実績値	39※
2	まちで魅了する舞台事業 2 ①ライブペインティン グとアコーディオンのほ っこりワールド・②老舗 桃林堂陌草園で楽しむ文 学座俳優の朗読	①令和3年10月23日 ②令和3年11月6日	内容: 地域の魅力ある場所でのライ ブペインティングとアコーディオン 演奏や文学座俳優の朗読。	目標値	100
		①インテリアカフェレス トランflo ②桃林堂 陌草園 いずれも八尾市		実績値	90※
3	伝統芸能未来継承推進事 業 やお発 次世代へつ なぐ高安能未来発信プロ ジェクト 高安薪能	令和3年10月10日撮 影、令和3年12月10 日より配信※	内容: 地域発祥の能楽流派<高安流 >ゆかりの神社境内で八尾にゆかり のある能「山姥」、や仕舞を公演。	目標値	184
		玉祖神社境内(八尾 市)		実績値	一※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和3年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	地域文化サポーター養成事業 プリズム市民サポーター活動	令和3年4月11日 (日)～令和4年3月 31日(木)	内容：地域住民にボランティアとして芸術文化事業に関わる機会を提供した。	目標値	登録人数： 25人、延べ 参加者数： 420人
		八尾市生涯学習センター 一他		実績値	登録人数： 25人、延べ 参加者数： 194人※
2	地域の次世代実演家養成事業1 ブラッシュアップ！吹奏楽クリニック	令和3年6月～ 令和4年3月	内容：大阪フィルハーモニー交響楽団・Osaka Shion Wind Orchestra 各楽団員による中学吹奏楽指導。	目標値	受講者数： 300人 延 べ参加者 数：1500人
		八尾市内中学校7校		実績値	受講者数： 199人 延 べ参加者 数：469人 ※
3	地域の次世代実演家養成事業2 子ども河内音頭講座 ①唄・楽器の講習会 ②踊り方講習会	令和3年4月18日～ 令和4年3月13日	内容：地域の伝統芸能の唄・楽器・踊りを子どもたちに対して講習し、次世代の育成と発信を行った。	目標値	①15人 ②15人 延べ参加者 数300人
		シルキーホール (八尾市)		実績値	①17人 ②7人 延べ参加者 数220人
4	大学連携事業	令和4年3月3日 令和3年7月24日	相愛大学学生がバリアフリーコンサートを企画出演、近畿大学吹奏楽部がフェスティバルへ出演。	目標値	①6人(出 演者)②30 人(出演 者)③2人
		八尾市生涯学習センター 一かがやき大会議室・ 柏原市民文化会館		実績値	①11人(出 演者) ②53人(出 演者) ③一※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和3年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	芸術文化のリーチ事業1 ～八尾市全校対象！くまなく行きます～芸術文化で学校訪問	令和3年6月30日～ 令和4年1月28日	内容：大阪フィルハーモニー交響楽団・Osaka Shion Wind Orchestra 楽団員アンサンブル等での学校訪問。	目標値	7,600人 (200人×38校)
		八尾市立の小中学校		実績値	6,476人 (21校・47回)
2	芸術文化のリーチ事業 2①フレンドリーコンサート ②八尾市立病院ロビーコンサート	令和4年3月3日 令和4年3月21日	内容：①相愛大学学生のバリアフリーコンサート②入院患者鑑賞のための学生と大阪フィル楽団員の演奏	目標値	①入場者数200人・②参加者数150人
		①八尾市生涯学習センターかがやき大会議室 ②(収録場所)八尾市立八尾中学校(放映場所)八尾市立病院受付ロビー※		実績値	①入場者数70人※・②参加者数313人※
3	子どもの素敵な劇場体験事業 能の世界に飛び込んでみよう！	令和3年11月27日	内容：小学生を対象にした八尾の能の関係についての講話、能楽体験、能ゆかりの地の史跡巡り。	目標値	前半(ワークショップ)20人、後半(史跡めぐり)30人
		高安コミュニティセンター		実績値	前半(ワークショップ)14人、後半(史跡めぐり)24人
4	地域の魅力発信事業1①八尾市吹奏楽フェスティバル ②“吹奏楽のまち八尾”の魅力を発信「広がるプロジェクト」	①令和3年7月24日・25日撮影、令和3年8月20日より配信 ※ ②令和3年4月～令和4年3月	地域の新しい魅力と位置付けられる吹奏楽の普及と活性化のための市民参加フェスティバルと情報発信。	目標値	①八尾市吹奏楽フェスティバル1,700人 (入場者1,150人、演奏者550人)

		<p>①（収録）柏原市民文化会館（放映）youtube</p> <p>②八尾市内各所</p>		実績値	<p>①八尾市吹奏楽フェスティバル1,150人（入場者758人※関係者のみ入場、演奏者392人）</p>
5	地域の魅力発信事業2 河内音頭やおフェスタ	令和4年3月19日	地域の伝統芸能・河内音頭の普及と活性化を目的とした地域の音頭取りと子ども音頭のフェスティバル。	目標値	370人（入場者200人、ライブ配信鑑賞者100人、出演者70人）
		Ario 八尾光町スクエア・レッドコート		実績値	1356人（観覧者977人、ライブ配信鑑賞339件、出演者40人）

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価	
社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。	
<p>【1. 総括評価】達成した。 新型コロナウイルス（以下、「コロナ」という。）の影響はあったものの、当館の「ミッション」および「8つの目的事業」に沿って、予定通り実施した。また改修休館を逆手に活かした実施をした。</p> <p>【2. ミッション・事業目的、地域の特性と事業の結びつきについてとエビデンス】 ①公演事業では、休館であったため実施会場の全てを地域に求め、地域の魅力を活かす「目的事業(以下、「目的」という)7・地域の魅力未来発信」のための事業を、その場所にふさわしい内容で3事業実施した。【エビデンス1】: 能のルーツがある地域の神社で行う新能を含む、3事業。②人材養成事業では、休館で活動の停止をせぬように「目的3・アート人材養成」のための事業を、学校や市内の官・民の施設を使って4事業実施した。【エビデンス2】: 生涯学習施設でのボランティア養成や、民間ライブハウスを借り上げて河内音頭の次世代養成講座などを含む、3事業。③普及啓発事業では、一つは「目的5・子どもの健やかな育ち促進」のための事業を、市内全小中学校を対象に実施した。芸術体験の機会がコロナにより減っている子どもたちに例年以上の数の学校に提供した。「目的6・人生の豊かな関わり支援」のための事業として、乳幼児、障がい者、また病気療養中の方にコンサートを届けた。【エビデンス3】: 乳幼児、障がい者のコンサートは客席を減らし対面実施し、病院ロビーコンサートでは感染対策の徹底のため、対面を避け動画配信にて、すべての病室で鑑賞できるように配信した。その他は「目的7・地域の魅力未来発信」の普及のための事業を3事業実施した。</p>	
<p>ミッション、事業目的、事業の結びつき</p>	<p>【3. 予定通り進められたか】 コロナ禍であったが、感染対策をした上で、事業中止をすることなく一部無観客上演や動画配信に切り替えるなどし、ミッションと事業の結びつきを明確に保ち、全て予定通り実施した。</p>
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。	
<p>【1. 総括評価】達成した。ミッション・ビジョンを落とし込んだ8つの目的事業では、3つの意義を達成する目的になっており、事業の全てはこれに沿って実施した。3つの視点の反映状況は以下のとおり。</p> <p>【2. 文化的意義】達成した。改修休館により、今年度は全ての事業をアウトリーチ形式で実施したが、実施にあたっては会場の特性と実施する実演芸術の組み合わせも考慮した。【事例】: 地域発祥の能楽流派「高安流」普及のため、ゆかりの場所で「薪能」や子ども向けのワークショップを実施した。芸術文化とグルメやワークショップを融合する「まちで魅了する舞台」シリーズではキャンプ場や魅力のあるカフェで実施することで若い世代の観客層開拓を狙った企画をした。【エビデンス】: 設定目標の「対象事業の満足度」は83%の目標に対して実績92%、「観客のうち40代以下が占める割合」は目標値35%に対して実績は47%と大幅に目標を上回る事ができた。【分析】: 劇場とはまた違った魅力を持つ場所を活かす芸術文化が提供できた。</p> <p>【3. 社会的意義】達成した。社会包摂の対象となる人を含めあらゆる対象者に芸術文化を提供した。【事例1】: 休館につき例年は劇場公演にあてる分の予算を活用して、市内全ての小中学校を対象に鑑賞事業を実施。例年600~700人程度のところ、約10倍の6,488人の児童・生徒が鑑賞した。外国人生徒が大多数を占める夜間学級へも訪問した。【エビデンス1】: 鑑賞した児童・生徒の満足度の目標値78%に対して実績は95%だった。【事例2】: 障がい者・妊婦・乳幼児をメインターゲットとする「フレンドリーコンサート」を継続実施した。また、新型コロナウイルス拡大により結果的に配信となったが、入院患者を対象にしたコンサートを実施した。【エビデンス2】: 参加人数の目標値350人に対して、結果は383人だった。【事例3】: 地域の伝統芸能「河内音頭」普及公演においては、外国にルーツのある地域住民の参加を促進するため地域に居住者の多い中国・韓国・ベトナム・英語でチラシやパンフレットを翻訳した。【エビデンス3】: 参加者へのアンケート調査で「まちの新たな魅力を感じた」を選択する人が18%以上となることを目標としたが、実績は13%であった。【分析】: 子どもたちに提供した実演芸術は非常に高い効果を得ることができた。</p> <p>【4. 経済的意義】達成した。【事例】: カフェで飲食付きの公演や、商業施設での「河内音頭やおフェスタ」の実施で参加者が地域の店舗で飲食・買い物をする機会につながることができた。【エビデンス】: 公演前後に消費活動をした人の割合は48%と昨年度より5%上昇している。【分析】: 直接消費活動につながる会場を選ぶことで、消費行動につながることができている。</p>	

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

【1. 総括評価】概ね達成した。

公演、人材養成、普及啓発の各事業の全指標9のうち6件が達成、2件が未達成であった。1つの指標については、コロナの影響を受けたことによって未達成となった。

昨年度と比較すると同じ達成割合維持することができた。

指標の達成状況

		R3年度		R2年度	
		数	割合	数	割合
指標総数		9	—	14	—
達成		6	66.7%	6	66.7%
未達成	ほぼ達成	—	—	1	11.1%
	未達成	2	22.2%	2	22.2%
コロナの影響で未達成		1	11.1%	中止等により測定不能	5

【2. 公演事業】達成した。

全3指標のうち、3件とも達成できた。

目標①参加満足度83%→実績92%で達成

目標②40代以下参加者比率35%→実績47%で達成

目標③「まちの新たな魅力を感じた」割合25%

→実績27%で達成

事例1：R3年度で3年目となる「まちで魅了する舞台」シリーズでは、内容により満足度に差が発生していた。今回3事業（4公演）実施したが、どの公演も満足度が高かった。

エビデンス：3事業の中でも、地元の童画家に依頼し、アコーディオンの演奏に合わせてライブペインティングを鑑賞していただく「ライブペインティングとアコーディオンのほっこりワールド」は特に満足度が高かった（右写真）。お洒落なカフェの素敵な空間と音楽とともに、1時間という短い時間でしっかりと作品が完成していく様子を食い入るように鑑賞され、100%という公演事業では非常にまれな高い満足度を得ることができた。



事例2：「まちで魅了する舞台」では、食や観光スポットなど芸術文化とは別ジャンルの地元の魅力とコラボレーションすることで、これまで芸術文化にあまり関心のなかった層に対してアプローチすることができた。今回は特に、夏休み時期のキャンプ場でのコンサートやお洒落なカフェレストランを会場に選ぶなど親子で参加できる企画も取り入れたため、20～30代の親と子という参加が増えた。

エビデンス：40歳未満の参加割合が47%（50代以上53%）で、これまで当館の事業に参加されていないお客様も多く、新しい客層にアプローチできたと言える。**分析**：これらにより達成できたと認められる。

【3. 人材養成事業】中程度達成した。

全2指標（コロナの影響を大きく受けたもの1つを除く）のうち、1つが達成、1つが未達成のため「中程度」とした。

目標①吹奏楽と河内音頭の子ども向け育成事業の延べ参加者数1,800人

→実績689人で未達成（吹奏楽指導の回数減・1回あたりの人数減など、コロナ感染防止対策の影響による減）

目標②アートマネジメントを学ぶインターンシップ参加人数10人以上→実績64人で達成

目標③ボランティア組織「プリズム市民サポーター」の活動満足度92%以上→実績83.3%で未達成

事例：例年3大学程度のうち2大学が実施を中止したが、コンサートの出演者及び企画を実施した相愛大学に加え、今回特別企画として吹奏楽フェスに吹奏楽の名門である近畿大学吹奏楽部に関わってもらうことができた。**エビデンス**：新しい取り組みを実施したことで、例年の6倍以上の大学生に関わってもらうことができた。

分析：ボランティアは、休館中ということもあり、公演時の表方スタッフとしての活動が実施できず、事務的な活動（アンケート集計作業、DM送付梱包作業など）のみになり、例年より満足度が低く、その影響で中程度の達成度となったと分析する。

【4. 普及啓発事業】概ね達成した。

全3指標のうち、2つが達成、1つが未達成のため、「概ね」とした。

目標①小・中学校への訪問公演の満足度78%→実績95%で達成

目標②乳幼児、障がい者、入院中の方をターゲットにした事業の参加人数350人→実績383人で達成

目標③アンケート調査で「まちの新たな魅力を感じた」を選択する人18%→実績13%で未達成

事例：令和2年度に続き「八尾市立病院ロビーコンサート」の対面公演は叶わなかったが、「こんな時だからこそ演奏を楽しんで欲しい」という思いから、プロの奏者と地元中学校の吹奏楽部が事前収録したコンサートの様子を病室のテレビモニターに配信してもらい、入院療養中の患者の皆さんに届けることができた。**エビデンス**：患者の方や病院の事務局からの感謝の言葉を頂戴し、人数面だけの達成でない評価も得た。

分析：コロナ禍で大人でも芸術文化の鑑賞機会が減っている中、通常でも鑑賞機会を多く持てない方々に芸術文化を届けることができたこと自体、非常に意義があったと思うが、訪問した学校の児童・生徒のアンケート満足度も非常に高く、十分な達成度合いであったと分析する。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【1. 総括評価】達成した。申請事業全 12 事業のうち全事業で事業期間は当初の計画通り適切に実施できた。

【2. アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。】達成した。

事業実施に関しては、進捗管理プロセスを設定しており、それに沿って行った。

事業実施前に、詳細な広報計画も含めた企画書と、特に公演事業については、「チケット販売管理表」を作成し、会議で逐次報告、共有することで、進行と事業期間管理をした。

【事例】：「～八尾市全校対象！くまなく行きます～芸術文化で学校訪問」は、市内の公立小・中学校に募集を行い、出演団体と学校側で日程を調整した。途中、コロナの感染状況が変動し、実施の延期希望や実施回数の増（1回の鑑賞者数を減らすため）を希望される学校も多く、要望を聞き、時間をかけて調整した。【エビデンス】：結果、コロナの感染者数が最多になった令和4年2月までに実施を完了させることができた。中止も無く、事業期間も延ばすことなく当初の計画（期間）通り進めることができた。【分析】：その他、感染拡大状況等も注視しながら臨機応変に対応し、事務処理等も含めて遅滞することなく、ほぼすべての事業で計画通りに進んだため、達成したと分析する。

「芸術文化で学校訪問」実施状況

各締切後の申込状況等

	最終結果		
	小学校	中学校	合計
参加学校数	14校(36回)	7校(11回)	21校(47回)
参加人数	4940人	1536人	6476人

	3/19×切 第1次募集 申込校	4/23×切 第2次募集 申込校	第1次で申込後 日程変更& 日数追加を 希望した校数	8/6×切 第3次募集 申込校
	小学校	12校(27回)	1校(3回)	左記のうち 4校(追加4回)
中学校	4校(8回)	2校(2回)	—	1校(1回)

【3. 当初の計画（助成金交付要望書）から大きな変更が生じたもの】

上記「～八尾市全校対象！くまなく行きます～芸術文化で学校訪問」は、学校への募集と調整が実施年度に入ってからとなるため、申請時に決定できていなかった。また、「まちで魅了する舞台 ①ライブペインティングとアコーディオンのほっこりワールド」については、出演者が多忙で会場となるレストランとの調整がなかなかつかなかったため、申請時に決定できていなかった。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【1. 総括評価】達成した。申請事業全 12 事業のうち全事業で事業費は当初の計画通り適切に実施できた。

【2. アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。】達成した。

事業費に関しても、当初の予算立てと予算執行プロセスのもと計画通りに実施できた。

既決予算に対し、助成金獲得状況や時世の影響も加味した上で、補正予算編成後確定している。プロセスにおいては、制作会議において企画制作スタッフ全員で協議し、上位決裁を受けている。

【事例】：事業実施においては、半期・年末・年度末の年3回決算見込みを作成している。「～八尾市全校対象！くまなく行きます～芸術文化で学校訪問」では、コロナの影響により大幅な実施校減が見込まれたため、その分の予算を回して、1校ごとの実施回数の増を提案することで、「密を避けることができる」と実施を決められた学校もあった。こういった細かな学校との調整により、少しでも予算を執行できるように努めた。【エビデンス】：結果、助成対象事業の事業費は要望時の事業費に対し 84.14%で、20%以上の乖離を生じさせることなく完了させることができた。それらの努力もあり、訪問した学校からは感謝の言葉を多くいただき、参加した児童・生徒全員からアンケートの回答が提出された。満足度は、94.9%という驚異的な数字であった。【分析】：それらを踏まえ、経費面・内容面両方において、事業費に見合ったアウトプットであったと言える。事業費は、すべての事業において、当初の設定予算から大きく違えることなく、また収支も問題なく推進できたため、達成したと評価する。

※その他計画と比較して乖離があったものについては、

- ・公演2：まちで魅了する舞台事業2 ①ライブペインティングとアコーディオンのほっこりワールド
②老舗桃林堂陌草園で楽しむ文学座俳優の朗読

当初2名での出演を計画していたが、より演出効果を高めるために演奏者も兼ねた俳優を1名追加したことにより、委託料等の支出が増額となった。

- ・普及啓発5：地域の魅力発信事業2 河内音頭やおフェスタ

アウトリーチ先として交渉できたショッピングモールの会場費が、当初有料と言われていたものが、実施先の商業施設から協力名義が得られ、会場使用料が無料となった。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

【1. 総括評価】達成した。地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であったと評価する。評価の根拠となる劇場・音楽堂等の資源は、下記の通り継続的に認められる。

【2. 劇場・音楽堂等を象徴する人物、鍵となる人物（キーパーソン）の存在】達成した。

当館は財団雇用の館長と舞台長を配置しており、両名とも30年以上当財団において地域の芸術文化振興に従事している。令和3年度からは課長職が誕生し、館長・舞台長のトップマネジメントを受け、機動的なミドルマネジメントを果たした。

事例1：館長は、外部の評価委員や（公社）全国公立文化施設協会（以下、「全国公文協」という。）のコーディネーター、支援員として講師派遣されるなどの実績を有する。館長の知見をスタッフに共有し、それらを今年度の事業計画にもしっかりと反映させることができた。**エビデンス1**：企画立案に際しては、館長ならびに企画制作課長参加の上で協議を行い、助成対象事業の企画書を完成させた。そういった企画再考の繰り返しにより、ミッション思考と質（工夫など）の向上に至っている。

事例2：当館は令和3年度の全て期間、改修のために休館したため、例年とは全く違う事業展開が求められた。ミッション・ビジョンに基づき今年度は地域へ偏りなく積極的に向かい出した。学校訪問など青少年を中心とした社会包摂の対象者に向けた事業、そして地域とのつながりを深める事業を展開した。

エビデンス2：結果、助成対象事業だけでも今年度は地域の40ヶ所で事業を実施し、事業参加者数はコロナ禍が続く中10,140人（感染拡大のため無観客配信となった事業は除く）で、令和2年度より2500人増となった。特に「～八尾市全校対象！くまなく行きます～芸術文化で学校訪問」では、感染予防対策のため止む無く申し込みをされなかった学校にも、再度申込の機会を提供できるよう2度の追加募集を行った。

事例3：舞台長および舞台課長や技術者は、地域の様々な場所での事業実施にあたりセット・照明・音響に携わり、公演の質を担保した。**エビデンス3**：結果、神社境内での薪能やカフェ等設備のない場所でも機材をセットして演出効果を高めることができた。これらの公演では観客満足度はいずれも85%以上だった。

分析：年度を通して拠点となる会館が休館となる中、館長・舞台長を中心とした課長職以上の経験豊富な管理職の指示のもと、スタッフがノウハウを発揮し、地域住民に感動をもたらす芸術文化事業を実施できた。

【3. 専属団体、フランチャイズ団体、提携団体の存在】達成した。

事例：芸術団体との今年度の提携状況は下図のとおり。

芸術団体	提携内容
大阪フィルハーモニー交響楽団 ★地域拠点契約団体	学校公演の実施、吹奏楽部生徒指導等
文学座 ★地域拠点契約団体	まちで魅了する舞台の実施
Osaka Shion Wind Orcestra	学校公演の実施、吹奏楽部生徒指導等
京都フィルハーモニー室内合奏団	まちで魅了する舞台の実施
高安能未来継承事業推進協議会	薪能、普及事業の実施
八尾本場河内音頭連盟	フェスティバル、普及事業の実施

エビデンス：上記団体とはこれまでも連携しており、また地域住民に対する普及啓発事業への実績も豊富である。積極的に実施場所に合わせた演目の提案もしてもらうことができた。上記6団体で、9事業109回に及ぶ公演・講座を実施した。

分析：音楽・演劇・地域にゆかりの深い伝統芸能と様々なジャンルと連携してきたこれまでの経験を今年度も活かすことができている。

【4. その他 文化芸術情報の整理、蓄積、提供、発信等について】達成した。

事例：今年度は、コロナ禍と改修休館という直接情報を届けづらいダブルの壁があったが、それらを乗り越え、アウトリーチで実施したリアル公演・講座に加え、講座の動画配信や公演のリアルタイムやアーカイブ配信を、昨年度に引き続き実施した。**エビデンス**：休館中の活動を伝える動画ニュースも含めた計52コンテンツを制作して配信し、年間の視聴合計回数は22,473回となった。「河内音頭」に関する動画は、元々人気が高く再生回数が多かったが、東京オリンピックで「音頭」が取り上げられたことに起因して、再生回数がぐんと伸び、それに伴って、会館ホームページの閲覧数も上昇した。動画コンテンツを保有していることで、全国各地の市民に発信を行うことができた。**分析**：アウトリーチで実施する公演・講座は、会館で実施するよりキャパ数が少なく、更にコロナによる入場制限で参加人数に限られる。リアルに参加することが出来なかった方でも、公演の雰囲気を感じることができるなど、利点も多くあるため、今後も動画コンテンツを蓄積していきたい。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

【1. 総括評価】達成した。休館を好機と捉え、芸術団体等の例年以上の回数、場所にアウトリーチを展開した。それによりコロナ禍で文化的な体験の抑制を強いられていた市民に実演芸術を提供し大変な歓迎を受けた。芸術文化の渴望状態を潤すことができた。

【2. 事例】

対象者や目的でカテゴライズすると、

- ①市内全域の学校での鑑賞公演や社会包摂の対象となる人にむけた公演事業
(例) 学校訪問、入院患者・乳幼児・障がい者向け公演
- ②地域の魅力ある場所を活かした実演芸術の公演事業
(例) まちで魅了する舞台シリーズなど
- ③地域とゆかりのある伝統芸能の普及公演事業
(例) 高安薪能、河内音頭やおフェスタなど
- ④青少年を対象とした人材養成事業
(例) 吹奏楽クリニック、子ども河内音頭講座
- ⑤市民ボランティアの養成事業を実施した。



<令和3年度のおおまかなアウトリーチ実施マップ>
 “●”は令和3年度のアウトリーチ先
 (隣接している場所同士はまとめている)

【3. エビデンス】

①今年度の助成対象事業において、連携のあった主な地域の機関・団体は右のとおり。助成対象事業での主な連携期間・団体だけでも43機関(団体)であった。これまで顔見知り程度だった団体・場所とも事業を通じて相互理解が深まった。令和4年4月に施行される八尾市の芸術文化基本条例では、当館を拠点とした網の目状のネットワーク強化で芸術文化を活性化させていくことを目指している。条例が目指す具体的な動きを「見える化」することができた。

今年度事業において連携のあった主な地域の機関・団体など（助成対象事業に限る）		
八尾市	八尾市教育委員会 八尾市立小・中学校・夜間学級 計21校	高安能未来継承事業推進協議会
八尾市立大畑山青少年野外活動センター	八尾本場河内音頭連盟	玉祖神社
八尾市生涯学習センター	八尾観光ボランティアガイドの会	桃林堂(地域の老舗菓子店)
八尾市立高安コミュニティセンター	八尾市内の高校4校	カフェFlo(カフェ)
八尾市立病院	八尾市内の社会人バンド	アリオ八尾
八尾市立しおんじ山古墳学習館	やおコミュニティ放送(株)	シルキーホール(八尾市)
柏原市民会館	ジェイコムウエスト(株)	

②助成対象事業全体の参加者の満足度は87.2%だった。特に満足度が高かったものとして、青少年対象の「能楽普及ワークショップ(満足度100%)」「河内音頭講座(同100%)」「学校訪問(同94.9%)」「まちで魅了する舞台(同91.9%)」などだった。

③事業への実参観者数は10,140人、また新型コロナウイルス感染拡大局面で無観客配信となった事業や、入場人数の制限を考慮して実鑑賞と配信を併用した事業もあった。配信視聴は令和3年年度末時点で11,458回であった。

【4. 分析】

エビデンス①のとおり多くの機関・団体と連携し、事業を実施することで、それぞれの機関・団体とのつながりが深まり、実演芸術や当館の取り組みについて理解が深まっている。

エビデンス②のとおり総じて事業参加満足度が高かった。注目したい点のひとつは「学校訪問」の満足度で、公演タイプの事業でかつ、ほとんどの生徒・児童からアンケート回答があった中(回答率99%)で満足度が94.9%に達した。自由記述の感想でも「少ない人数でもすごくたくさんの音が聴こえて、音のきれいで感動した。」など、プロの実演に多くの感動が寄せられた。芸術文化への興味関心の喚起につながったと考えている。

青少年に対する地域とゆかりのある伝統芸能の普及啓発・人材養成事業でも満足度が高く、実際に子どもたちが発表の舞台上でいきいきとする姿を見ることができた。

エビデンス③のとおり、事業への実参観者数は10,140人(感染拡大のため無観客配信となった事業は除く)で、令和2年度より2500人増となった。地域に芸術文化を広げることができた。配信については比較できる過去のデータが存在しないが、実鑑賞で受入可能な人数をはるかに上回る人数に鑑賞をしてもらうことができています。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

【1. 総括評価】達成した。下記の取り組みの結果、事業を通じて組織活動が持続的に発展しうると認める。

【2. 事業運営】認める。

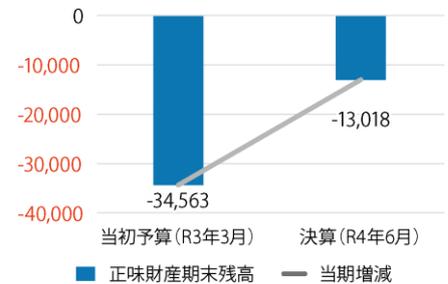
・コロナの影響はあったものの、令和3年度は予定した助成対象12事業は中止することなく全て実施した（会館主催事業すべてにおいて実施）。昨年度に経験したコロナ禍での対応ノウハウが活かされ、工夫と柔軟な対応が取れた結果である。**【エビデンス】**：学校訪問については、学校側の感染対策方法に寄り添い、個別対応を実施した。**【事例】**：1校で1回公演を予定していたものを、密を避けるため学年毎の3回に分けての実施や、コロナのため参加を避けた学校への配慮として、後日オンライン演劇ワークショップを企画するなど、対応力を発揮できた。そのほかの事業もガイドラインに基づき参加者数を半数にする、換気の良い野外でするなど工夫しつつ、ワークショップや飲食付き公演も実施するなど、状況に応じて実施し、持続的に発展する事業運営が認められた。

・令和3年度も助成対象事業すべてにアンケートを実施した。**【エビデンス】**：定性評価は、全体を通して、コロナ禍にあっても舞台芸術に触れる喜びの声や待ち焦がれたとの声が多かった。また子どもの鑑賞機会を喜び子どもと保護者の声もあり、ターゲット層に訴求した。定量評価も好調であった。定量評価は、事業アンケートを「8つの事業目的」別に集計し、その目的ごとの事業平均すべてが80%を上回り、地域から求められている（最高値は94.9%）。

【3. 経営戦略】認める。

大規模改修による年間を通じた休館のため、当館の収益の柱である利用料金収入は見込めず、経営的には指定管理料と事業収益等の収入を基礎に、経費を抑制する方針で赤字の当初予算編成であった。事業収入においては概ねコロナ禍で抑制した集客目標を達成し入場料収益を確保、また、無観客になったものについては地域団体や企業からの協賛金を集めた。その他、文化庁や厚労省、大阪府からの助成金、補助金を獲得した。**【エビデンス】**：令和3年度決算において、最終的に赤字にはできなかったものの、赤字額を当初予算額から約1/3に抑制することができ、持続可能性を見せている。

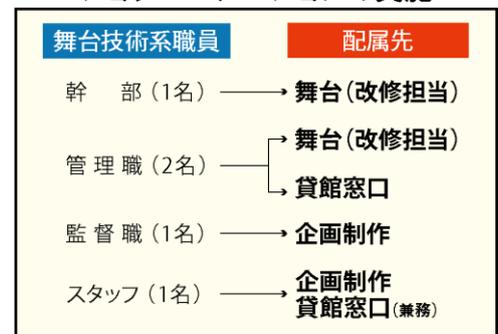
R3年度 正味財産額 当初予算と決算(単位:千円)



【4. 人事戦略】認める。

人財育成方針に基づき「一専多能工・T字型（一つの専門に深く、他に広い知識を有する）人財」の育成を目指している。令和3年度は休館で舞台運営をしないことから、舞台技術職を中心に大胆なジョブローテーションを実施した。これにより、企画・舞台・貸館知識が交流し総合的な劇場マネジメント能力が高まった。**【エビデンス】**：アウトリーチ先での事業時にも簡易な舞台等設備を設置、演出効果を高めた。また感染症対策も兼ねた動画配信に関し、撮影・編集・配信を技術職員が引き受け、活発に行った。舞台技術職員が初めて助成金申請プロジェクトに加わり、スタッフ自身の大きな刺激となった。全国公文協のオンライン研修には、管理職・舞台技術スタッフを含む全員が聴講。組織が成長し、持続的発展につながっている。

ジョブローテーションの実施



【4. 各方面とのネットワーク】認める。

令和3年度も定例の全国公文協、近畿支部会、大阪府文化施設連絡協議会と地区別の東部地区会議の4会議で施設間の情報交換を実施。事業面では、近畿大学、相愛大学と大学連携を実施、学生が助成対象事業への出演や、さらに自ら企画・運営・出演をするなど多面的な機会を提供した。アウトリーチにおいては、会場を地域に求め古民家や老舗和菓子店、カフェ、ライブハウスなど民間店舗等と連携した。定例的な会として、地域の文化活動の要となる団体（八尾市観光協会、地域FM局、市民活動ネットワーク支援センター）と交流、事業実施の際の協力関係を構築している。能の上演は、市民団体との連携により新能とワークショップを実施した。これら連携では、いずれの団体とも当館のミッションについて共有し継続的な協力関係を築き、持続的発展につながっている。

【5. PDCAサイクルによる改善と機能強化】達成した。

現場から得た情報・知見・課題は、企画制作会議や戦略会議など各種会議体に報告、協議内容を現場で共有し改善した。**【事例】**：恒例の吹奏楽フェスティバルを、休館かつコロナ禍にいかん遂行するかに関し、初めての他館（近隣市文化施設）利用を協議し決定した。当市所管課、学校、部活顧問、生徒・保護者からの情報を収集、市外へ出ることの課題・方策を協議、合意をはかった。**【分析】**：各所からの情報収集と判断の結果、無事他市での無観客上演として実現できた。さらに動画配信も実施、改善と機能強化の点で持続的発展がみられた。